

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 63 平成21年1月（平成20年10月～12月分）

西海区水産研究所

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	山口県	<ul style="list-style-type: none"> *カタクチシラス調査 	<ul style="list-style-type: none"> *沖合定線観測（10、11月） *間伐材魚礁効果調査 *貝毒原因プランクトン調査： <ul style="list-style-type: none"> ・仙崎湾で11月上旬から貝毒原因プランクトンの分布調査を開始した。11月中旬のギムノディニウム カテナータムの密度は350cells/lで、マガキを対象としたマウス試験では5.25MU/gとなり、規制値（4MU/g）を越えたため、当海域の2枚貝及び養殖マガキの出荷自主規制を実施中。ギムノディニウム カテナータムはその後も増殖し、3万cells/lを越え、12月中旬のマウス試験では251MU/gに増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> *アカアマダイ種苗生産試験： <ul style="list-style-type: none"> ・10/9～12/12にかけて実施し、全長24～27mmの種苗約7万尾（生残率13.5～15.3%）を生産した。現在、引き続き中間育成中。 	<ul style="list-style-type: none"> *ハモのコラーゲン分析 *トラフグの成分分析
	福岡県	<ul style="list-style-type: none"> *筑前海： <ul style="list-style-type: none"> ・イカナゴ親魚分布調査 ・トラフグ放流効果調査 ・ヒラメ・マダイ資源調査 ・ケンサキ、コウイカ調査 *有明海： <ul style="list-style-type: none"> ・タイラギ調査 ・アサリ調査 ・サルボウ調査 ・ガザミ調査 ・その他魚介類漁獲状況調査 *豊前海： <ul style="list-style-type: none"> ・アサリ資源量調査 ・小型底びき網調査 *内水面： <ul style="list-style-type: none"> ・小石原川・佐田川資源調査 	<ul style="list-style-type: none"> *筑前海： <ul style="list-style-type: none"> ・浅海、沿岸、沖合定線調査 ・漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査） ・水質監視調査 *有明海： <ul style="list-style-type: none"> ・浅海定線調査 ・漁場環境保全事業（漁場環境調査、赤潮発生監視調査、貝毒発生監視調査） ・水質監視調査 ・エチゼンクラゲの分布調査 *豊前海： <ul style="list-style-type: none"> ・新漁業管理制度推進情報提供事業調査（旧浅海定線調査） ・漁場保全調査 ・赤潮、貝毒調査 *内水面： <ul style="list-style-type: none"> ・矢部川・筑後川の水質及び底生生物調査 	<ul style="list-style-type: none"> *筑前海： <ul style="list-style-type: none"> ・フトモズク系状体培養及び採苗試験 ・アマノリ品種識別試験 ・ノリ養殖場調査 ・真珠養殖試験 ・アマモ増殖試験 ・アワビ資源調査 *有明海： <ul style="list-style-type: none"> ・ノリの品種判別試験 ・ノリの優良形質選抜法の開発 ・ノリの室内培養による品種評価法の開発試験 ・河川水由来の栄養塩の有効利用技術の開発調査 *豊前海： <ul style="list-style-type: none"> ・カキ養殖調査 ・ノリ養殖調査 *内水面： <ul style="list-style-type: none"> ・ハヤの資源回復試験 ・モクズガニ種苗の放流・中間育成試験 	<ul style="list-style-type: none"> *筑前海： <ul style="list-style-type: none"> ・アカモク調査 ・有明アサリ特性調査
	佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> *玄海： <ul style="list-style-type: none"> ・資源評価調査 *有明： <ul style="list-style-type: none"> ・タイラギ生息状況調査 ・漁獲物動向調査（市場調査等） 	<ul style="list-style-type: none"> *玄海： <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸定線調査 ・玄海漁場環境調査 ・赤潮調査 ・貝毒調査 ・漁場環境保全調査（全域） ・貝毒（麻痺性）HPLCモニタリング ・水温・塩分自動観測ブイ（唐津湾、名護屋湾、伊万里湾）の中層・底層センサー増設 ・地球温暖化影響評価調査 ・漁場環境研修会開催 *有明： <ul style="list-style-type: none"> ・浅海定線調査 ・沖合モニタリング調査 ・漁場環境モニタリング調査（底質、マクロベントス） 	<ul style="list-style-type: none"> *玄海： <ul style="list-style-type: none"> ・オニオコゼ標識魚放流 ・クルマエビ、トラフグ、カサゴ、オニオコゼの標識魚追跡調査 ・アカウニの種苗生産試験 ・稚ナマコの減耗防止技術開発試験 ・アカガイ養殖試験（伊万里湾） ・養殖日誌記帳調査（後期） ・水産用医薬品残留検査 ・養殖魚JAS規格研究会開催 *有明： <ul style="list-style-type: none"> ・竹崎カキ収量調査 ・シカメガキ垂下養殖試験 ・サルボウ密度漁場試験追跡調査 ・サルボウ濾水速度実験 ・ガザミ、クルマエビ放流追跡調査 ・アゲマキ放流技術開発試験 	<ul style="list-style-type: none"> *玄海： <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発 ・加工部会による加工品販売所設置

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 63 平成21年1月（平成20年10月～12月分）

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	佐賀県		<ul style="list-style-type: none"> ・貧酸素水塊漁業被害防止対策調査分析 ・赤潮調査 ・貝毒調査 ・エチゼンクラゲ生態調査 ・シャトネラ室内培養試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・アゲマキの囲繞提を使用した底質改善試験 ・壺状菌（海水、泥）の検出調査 ・スミノリ原因細菌のモニタリング調査 ・ノリ漁場調査 ・ノリ品種野外試験 	
	長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・アマダイ調査（対馬：10～12月） ・トビウオ調査（五島、北松、対馬：10月） ・トビウオ船びき網試験（五島：10月） ・アジ、サバ調査（西彼：10～12月） ・カタクチイワシ調査（北松、五島灘：10月） ・イワシ船びき網試験（西彼：10～12月） ・イカ類調査（対馬、壱岐：10～12月） ・キビナゴ調査（五島：10～12月） ・タチウオ調査（橘湾：10～12月） ・ヨコワ調査（対馬、五島：10～12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸定線調査（五島灘、西沖：10～12月） ・浅海定線調査（有明海：10～12月） ・赤潮調査（薄香湾：10～12月） ・貝毒調査（対馬地区：10～12月）（島原地区：10～12月） ・干潟域環境・アサリ調査（小長井町：10～12月） 	<ul style="list-style-type: none"> * 追跡調査： <ul style="list-style-type: none"> ・放流トラフグ：10～12月 ・放流ガザミ：10～11月 ・放流クエ：10月 ・放流ヒラメ：12月 * 天然資源、漁獲実態調査： <ul style="list-style-type: none"> ・トラフグ漁獲物調査：10～12月 ・オニオコゼ漁獲物調査：10～12月 ・ガザミ漁獲物調査：10～12月 ・アワビ漁獲物調査：12月 * 種苗生産、中間育成： <ul style="list-style-type: none"> ・アカアマダイ： <ul style="list-style-type: none"> 9月下旬～10月上旬に対馬で天然親魚から採卵し、種苗生産試験を開始、12月上旬には稚魚2,000尾を生産した。 ・アカアマダイ（人工生産親魚）： <ul style="list-style-type: none"> 10～11月に水試陸上水槽で養成中の人工生産魚3歳から採卵し、種苗生産試験を実施、12月下旬に稚魚1,000尾を生産した。 ・クロマグロ： <ul style="list-style-type: none"> 9月中旬に（独）水産総合研究センター奄美栽培漁業センターから譲与された受精卵を用いて種苗生産予備試験を実施し10月17日に稚魚646尾を生産した。生産した稚魚は直ちに五島市まで輸送試験と現地での養殖試験に供した。 ・タイラギ生息状況調査（諫早湾） ・藻場調査（9月から秋季調に関する調査） ・ペコ病の実態調査（シスト調査等） ・マハタのウイルス性疾病対策試験 ・カワハギ養殖試験（委託） ・マハタ適正栄養要求試験 ・電解ろ過水槽の実用化試験 	<ul style="list-style-type: none"> * 加工技術など指導（10～12月） <ul style="list-style-type: none"> ・技術相談91件295人（内施設利用34件79人） ・研修会11回157人 ・巡回指導5回12人 ・来訪者380人 * 研究技術開発： <ul style="list-style-type: none"> ・発酵技術を利用した水産加工新製品の開発 ・イカ肉の高度有効利用技術の開発 ・長崎県産魚を原料とした機能性醗酵食品（さかな味噌）の開発 ・塩干品高品質化原料調査事業
	熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・マダイ・ヒラメ・クルマエビの放流魚混獲率調査 ・カタクチイワシ資源量調査 ・卵稚仔調査・稚魚調査 ・藻場関係調査 ・アサリ干潟調査 ・タイラギ資源モニタリング調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・有害プランクトン等モニタリング調査 ・浅海・内湾定線調査 ・浦湾（養殖漁場）調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的養殖生産推進事業 ・養殖魚介類生産安定対策事業 ・環境適応型ノリ養殖対策試験 ・海面養殖ゼロエミッション推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物付加価値向上事業 ・水産物安全安心確保推進事業

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 63 平成21年1月（平成20年10月～12月分）

		水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）
研 究 の 動 向	大分県	<ul style="list-style-type: none"> 魚市場調査 立体的魚礁効果調査 標本船調査 タチウオ資源調査 アジ・サバ生態調査 アサリ資源調査 アマゴ産卵状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸、浅海定線調査 赤潮・貝毒調査 磯焼回復試験 ナルトビエイ生態調査 ミズクラゲ生態調査 河川環境調査 濁水影響試験 	<ul style="list-style-type: none"> アサリ、イワガキ種苗生産試験 ヒジキ増養殖試験 ノリ養殖指導 アワビ、クルマエビ、カサゴ、トラフグ、アサリ、マコガレイ放流効果調査 耐病性アコヤガイ、マハタ、イワガキ、ミルクイ、トリガイ養殖試験 ブリ、ヒラマサ、カワハギ餌料試験 ヒラメ、海藻、アワビ複合養殖現地試験 ヒラメ抗病性向上試験 ドジョウ稚魚生産供給及び生産技術指導 スッポン稚魚生産供給 県産アマゴ春採卵技術開発 アユ採卵試験 淡水魚養殖漁家巡回指導 ホンモロコ養殖試験 	<ul style="list-style-type: none"> *ブリ肉質評価試験
	宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> 主要浮魚類資源調査 高度回遊性魚類調査 資源回復計画関連調査 	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸定線調査 沖合定線調査 	<ul style="list-style-type: none"> *特になし 	<ul style="list-style-type: none"> *魚礁効果調査技術開発 *水産利用加工 ・鮮度低下の早い魚種の鮮度保持試験 ・蓄養マアジの鮮度保持マニュアル試験
	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> *漁海況週報の発行：第2274～2286報。 *200カイリ水域内漁業資源調査：アジ、サバ、イワシ等の精密測定、カタクチイワシ、マイワシ等の卵稚仔調査等 *メバチ・キハダの標識放流：10/26～28、奄美大島沖合で標識放流を実施。標識尾数はメバチ7尾（尾又長44～66cm）、キハダ296尾（34～65cm）。標識は、ダートタグ及びアーカイバルタグ *ブリの標識放流：10/30、11/12に指宿市沖合で標識放流を実施。4kg前後（尾又長60～70cm）、484尾をダートタグ標識放流。また、12/11に同海域で、1kg前後（尾又長35～45cm）589尾をダートタグ標識放流。 *底魚資源調査：11/18～25、奄美海域でキンメダイ等の漁場調査を実施。延べ14回の試験操業でキンメダイ類52尾、約60kgを漁獲したほか、ムツ、メダイ、ハマダイ等を漁獲。 	<ul style="list-style-type: none"> *沖合定線海洋観測：10～12月各1回実施 *表面水温は、全海域月平均で10、11月はかなり高め、12月（中旬まで）は各海域の旬平均で平年並み～著しく高め。 *黒潮北縁域（佐多岬～笠利塔間）は、短期的な離接岸を繰り返しながら11月以降は離岸することなく、月平均では各月とも接岸。種子島東の黒潮流軸位置は10月中旬までは平均的な位置～離岸、10月下旬以降は平均的な位置～接岸で推移。 *赤潮プランクトン定期調査：鹿児島湾－10～12月各1回実施。八代海－10～12月各1回実施。鹿児島湾では9月初旬から発生していた貧酸素水塊は、10月下旬で終息。また、10月中旬に無害種コクロデインユウム コンボルタム赤潮が発生。 *藻場造成試験（調査）：笠沙、指宿市岩本、志布志、阿久根、奄美大島の藻場調査や藻場造成を指導。 	<ul style="list-style-type: none"> *スジアラ種苗生産試験：7/4から種苗生産試験を開始し、10/29で終了。計3ラウンドで過去最高の54千尾（平均全長約4cm）を生産。その後当センター及び県裁協で中間育成した22千尾（全長約8cm）を、11/5及び18に奄美地先に放流。 *モクズガニの放流効果調査：10～12月に3回/月、放流効果調査を実施。放流後約3年半で甲長約7cmに成長していることを把握。再捕個体は、ほとんどが雄。 *アユ調査：天降川の流下仔魚調査を11～12月に3回/月実施。流下仔魚量は例年の2～3倍量。 	<ul style="list-style-type: none"> *研修視察等の受け入れ状況：10～12月、16団体、671人 *開放型実験棟（水産加工利用棟）の運用：10～12月、延べ17団体54人利用 *HPのアクセス件数：10～12月、59,195件（対前年比77.8%）
	沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> *マグロの標識放流：与那国海域にてキハダ227個体（平均FL:37.8cm）、メバチ6個体（平均FL:38.8cm）カツオ75個体（平均FL:39.1cm）を放流した。 	<ul style="list-style-type: none"> *特になし 	<ul style="list-style-type: none"> *ハタ類種苗生産関係の実施中課題： <ul style="list-style-type: none"> ・チャイロマルハタとヤイトハタの成長比較試験 ・天然魚のVNN感染状況調査 ・標本採取 	<ul style="list-style-type: none"> *特になし

西海ブロック水産研究及び水産業情報（県水産試験場等）

No. 63 平成21年1月（平成20年10月～12月分）

	水産資源関係	水産海洋・漁場環境保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済関係、災害等）												
研 究 の 動 向	沖縄県		<ul style="list-style-type: none"> ・MTまたはAI処理によるヤイトハタ雄性化試験試験魚の生殖腺サンプリング。雄化は確認できず。 ・ヤイトハタ早期産卵誘導試験 試験魚を加温水槽に移送し、実験開始。 *シャコガイ増養殖技術開発事業： ヒメジャコ人工養殖基盤の開発試験を継続して実施中。現在は、人工基盤の水中硬化を抑制するための配合試験を行っている。 *シャコガイ種苗生産： <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>ヒレナシジャコ</td> <td>5-15mm</td> <td>稚貝40千個体</td> </tr> <tr> <td>ヒレジャコ</td> <td>5-15mm</td> <td>稚貝39千個体</td> </tr> <tr> <td>ヒメジャコ</td> <td>5-15mm</td> <td>稚貝52千個体</td> </tr> <tr> <td>シラナミ</td> <td>5-15mm</td> <td>稚貝12千個体</td> </tr> </table> <p>沖縄県栽培漁業センター</p> <ul style="list-style-type: none"> *マダイ： 9月上旬から早期産卵処理中のマダイが12月初旬に産卵開始。また、長日処理のみで産卵促進を試みていたマダイ親魚群が処理開始後46日目の12月中旬に産卵。水温と光周期の制御を並行した群の産卵（前述群）から2週間遅れの初産であった。 12月上旬と下旬に種苗生産を開始。1月中旬取上予定。 *タカセガイ： 11月下旬に放流用種苗（殻径8mm）を県内4個所に計17.7万個を出荷した。 *シラヒゲウニ： 10月末に250万個の幼生を収容して種苗生産を開始。11月下旬から12月始めにかけて計210万個の八腕後期幼生を採苗し、飼育中。浮遊幼生飼育の生残率は84%と好結果であった。 *ナマコ類： 全長2～3cmのイシナマコ約1万個余、全長2cmのハネジナマコ7千個を取り上げた。いずれも採苗からの飼育期間は、約90日であった。 *ヒメジャコ： 10～12月に14.2万個（殻長7.0～18.5mm）を出荷。現在、1～3mmサイズを約30万個、8～10mmサイズを約8万個飼育中。 	ヒレナシジャコ	5-15mm	稚貝40千個体	ヒレジャコ	5-15mm	稚貝39千個体	ヒメジャコ	5-15mm	稚貝52千個体	シラナミ	5-15mm	稚貝12千個体	
ヒレナシジャコ	5-15mm	稚貝40千個体														
ヒレジャコ	5-15mm	稚貝39千個体														
ヒメジャコ	5-15mm	稚貝52千個体														
シラナミ	5-15mm	稚貝12千個体														